

今週のメニュー

■トピックス

◇米国で注目される塩ビ建材 ー米国塩ビ協会ホームページよりー

■随想

◇モザンビーク共和国旅行記（1）ーモザンビーク共和国ってどんな国ー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇米国で注目される塩ビ建材 ー米国塩ビ協会ホームページよりー

米国の7月の中古住宅の販売件数は2012年7月と比べて17.2%の伸びだったなど、住宅市場が大きく伸びている米国の塩ビ協会(VI, Vinyl Institute)のホームページに、最近、米国で注目されるエクステリア塩ビ建材の例が掲載されていましたので、紹介したいと思います。

日本でもまだ、台風の動きが気になる場所ですが、例年ハリケーンに見舞われることの多い米国メキシコ湾地域で、ある塩ビ建材は強力なハリケーンにも耐えたという例です。フロリダのある駐車場の軒下(soffit)に張られていたアルミニウム製の板がある年のハリケーンで壊されたのを機に、塩ビ製の soffit に替えたところ、ここ数年の強烈なハリケーンにも耐えているということです。塩ビ製品の耐久性と耐腐食性が活かされているこの建材は、室内プールの吊り天井材としても使われ、デザイン性も高い建材として有用であるとしています。



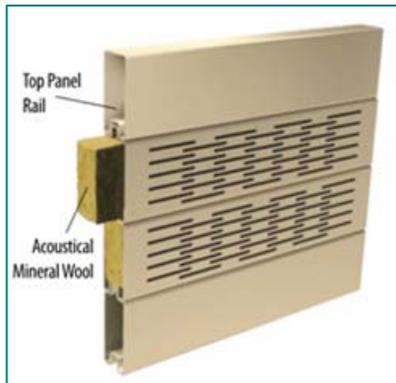
吊り天井としての使用例
(Rulon International HP より)

二つ目の事例は、アパートや娯楽施設、野球場などに使われる塩ビ製手すりです。金属で補強された塩ビ製手すりは、耐紫外線を付与することができ、塩害や腐食性が心配される地域で、メンテナンスフリーで長期間の使用が見込まれるとして施工されています。



塩ビ製手すりの施工例
(VI HP より)

さらに、防音壁に塩ビ製板を使う例についても紹介されています。鉄骨やコンクリートで補強された支柱に塩ビ製の板を差し込んで、高さ数メートルの防音壁を築くものです。中が中空になった塩ビ板だけを使い、音を跳ね返すだけのタイプの防音壁と中空になった部分に吸音材を挿入し、遮音するタイプのものがあります(写真参照)。空港や交通量の激しい道路や工場地域、商業地域の防音壁に役立ちそうです。やや大掛かりな工事にはなるものの、他の防音建材と比べ軽いことから写真のように簡単に設置できるとのうたい文句になっています。



塩ビ製板の構造と防音壁施工状況

(All Sound Walls カタログより)

いずれも他の素材と比べた場合の塩ビの持つ軽量性、耐久性、耐腐食性、耐薬品性、コストパフォーマンス性などが活かされたものとなっています。もしかすると、日本でも新しい塩ビ建材が生まれるかも知れません。興味ある方は、VI のホームページをご覧ください。

<http://vinylinfo.org/exterior-vinyl-building-products-extreme-performance-for-extreme-weather-conditions/>

■ 随想

◇モザンビーク共和国旅行記（1）ーモザンビーク共和国ってどんな国ー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

毎年、アフリカ・中近東からお送りをしている“アフリカ旅行記”。
今年は南アフリカ、「モザンビーク共和国(República de Moçambique)」からお送りします。

「モザンビーク共和国」と聞くと 1993 年から 1995 年にかけて、日本では 3 番目に派遣をされた自衛隊の国連平和維持活動 (PKO) を思い出す人も多いかもしれません。当時は海外派兵に繋がる、いや国際貢献だと世論を二分する論争となりました。その後も、まだいろいろな議論はあるようですが自衛隊の国連平和維持活動は一般的になってきたようです。

では、なぜ国連平和維持活動が必要だったのでしょうか？

モザンビークは 1498 年、ヨーロッパから南アフリカの喜望峰を経てインドのゴアまで、当時としては最短の航路を「発見」したポルトガル人冒険家、ヴァスコ・ダ・ガマが現在のモザンビークに到達したのをきっかけに、16 世紀初頭より、ポルトガルの植民が始まり、17 世紀半ばにはポルトガルの植民地支配が確立し、ポルトガル領モザンビーク・東アフリカとなりました。



[クリックで拡大](#)

その後、モザンビークはアフリカからヨーロッパだけではなく、やはりポルトガル領であったブラジルにまで奴隷を“輸出”する基地として機能をしていました。

現在、ブラジルには混血が進んでいるとはいえ黒人系の方たちもたくさんおられます。その方たちの先祖のほとんどはモザンビーク人、或いはモザンビーク周辺から“輸出”をされた奴隷の末裔であると言われていました。

1960年、ポルトガル兵がムエダという場所でモザンビーク人を大量虐殺する事件が起こったことをきっかけに独立紛争に火が付き、1975年、ポルトガルからの独立を果たしました。しかし、最初の政権を取ったマルクス・レーニン主義のモザンビーク解放戦線主導の政府は経済政策失敗。更に南アフリカの白人政権、ヨーロッパの一部の支援を受けたモザンビーク抵抗運動（反政府ゲリラ）との抗争が続き、1992年、包括平和協定が締結されました。その後も小さな衝突は続いていましたが、1994年、独立後初の複数政党による大統領選挙、議会選挙が行われました。

独立直後のモザンビーク国内の物資の輸送、選挙の立ち合いを行ったのが自衛隊の国連平和維持活動です。

物資の輸送に関しては、長期に渡る内戦の際、それぞれの勢力が、相手が進攻をしてこないよう、モザンビーク国内の様々な場所に地雷を敷設しました。その数は単位面積当たりこれまでで最も多い数だといわれています。当然、どこに地雷を設置したのかの正確な記録もなく、いまでも主要幹線道路を除くと多くの場所に地雷が埋められたままとなっています。また、この地雷、ベトナム戦争の頃の地雷とは性能が違います。

皆さんのイメージする地雷は、地雷の上に乗ると起爆スイッチが入りドカンと爆発するものではないでしょうか。モザンビークで敷設された地雷には人が近づいてくる振動を検知するとドカンと爆発するものも多く、この機能はまだ生きています。このため、いまでも多くの方が地雷爆発による被害にあうとともに、撤去作業もはかどっていません。

地雷の撤去に関しては、人の手で掘り出すのも危険なため、日立建機の関連会社、日建（旧：山梨日立建機）が地雷除去機というパワーシャベルをベースにした工作機を製作。モザンビークやアンゴラなど、地雷撤去に取り組んでいる各国に提供し、活躍をしています。

日本との関係は非常に古く、1586年、江戸時代に九州のキリシタン大名がヨーロッパに派遣した天正遣欧少年使節団がヨーロッパからの帰路、喜望峰を経由しモザンビークに到着。翌年、インドのゴアに向け出発し、1590年に帰国をしています。

また、織田信長がポルトガル人の使用人として来日したモザンビーク人と会ったという記録も残っており、国立博物館に所蔵されている南蛮屏風に描かれている黒人はモザンビーク人ではないかと言われています。

日本にキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルもモザンビークを経由して来日したそうです。

モザンビークの面積は786,380平方キロメートル（日本の約2.1倍）。面積に関しては799,380平方キロ、801,590平方キロと記載している資料もあります。どうしてこんなに違うのでしょうか？？？

人口は最新の2013年7月の調査によると24,096,669人。

首都は「マプト（Maputo）」。モザンビークも他の国と同じで都市部への人口の集中が進んでおり、マプトではインフラ整備の遅れ、住宅不足、治安の急激な悪化という問題を抱えています。

平均寿命は男女合わせた年齢で52.29歳。

世界保健機関（WHO）の「World Health Statistics 2013（世界保健統計 2013）」によると、モザンビークで1人の女性が産む子供の数の平均（合計特殊出生率）は4.8人（日本は1.4人）。アフリカでは平均的な人数です。

14歳までの子供は総人口の45.5%を占めています。

アフリカでは大きな問題となっているHIV（エイズ）の罹患率は2009年の調査で11.5%と高く、医療水準も非常に低いためマラリアやコレラと並んで大きな問題となっています。

人種はアフリカ系の人はかなり混在しており、細かい統計が見つかりません。大雑把な統計は以下の通りです。

A f r i c a n : 99.66% (Makhuwa 族, Tsonga 族, Lomwe 族, Sena 族, その他部族)
Euro-Africans : 0.2%
I n d i a n s : 0.08%
Europeans : 0.06%

ポルトガルの植民地でしたが、一般人同士の会話でポルトガル語は使われていません。1997年の調査では、具体的には以下になるそうですが、それぞれの言語については全く分かりません (^_^)

Emakhuwa : 25.3%
ポルトガル語 : 10.7%
Xichangana : 10.3%
C i s e n a : 7.5%
E l o m w e : 7.0%
Echuwabo : 5.1%
その他のモザンビーク系言語 : 30.1%
その他言語 : 4.0%

宗教はポルトガルの植民地だったこともあり、キリスト教が多いようで、1997年の調査によると以下ようになります。

カトリック : 28.4%
プロテスタント : 27.7%
イスラム : 17.9%
その他 : 7.2%
無宗教 : 18.7%

特に表記をしていない統計は2013年7月の調査です。それでは、モザンビーク旅行記の始まりです。

(つづく)

■ 編集後記

単身生活で普段、中華や洋食が主体の食事をしているせいか、この季節になると、すこぶる田舎（東北の実家）が恋しくなります。新米、栗ごはん、芋煮、秋刀魚、きのこ汁…思い浮かべるだけで子供の頃の秋の味を思い出します。今は、季節に関係なく、また地域に関係なく、いつでもどこでも手に入れようと思えば、いろんな食材が手に入れられるので、我家の子供たちは「帰りたいな」と思ってくれるようになるのか、ちょっと心配になりました。（鈴蘭）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp